

## 令和2年度事業評価中間報告書（要旨）

政策評価の対象とした政策	正倉院宝物再現模造全国巡回事業
政策の目的・目標	正倉院宝物を忠実に再現した「再現模造」を2年間で全国8か所の会場で展示することにより、日本文化の伝統を継承することの重要性とその意義について紹介するとともに理解の向上を図る。
中間報告書の概要	<p>本報告書は、令和3年度に公表する総括的な評価（事後評価）に向け、令和2年度中の取組について、中間的な取りまとめを行うものである。</p> <p>○ 事業の内容</p> <p>正倉院宝物に使用された材料、構造ならびに製作技法を忠実に再現した再現模造を、全国4か所（うち1か所は延期）の会場で展示し、通常ではなかなか観覧することのできない正倉院宝物を、再現模造を通じて広く国民に紹介した。また、再現模造製作事業の重要性とその意義についても紹介し、深く国民の理解の向上を図った。</p> <p>○ 現時点での効果</p> <p>(1) 展覧会来場者数</p> <p>令和2年7月から令和3年3月にかけて、3会場において、74,789人の来場者があった。（149日間）</p> <p>(2) 来場者へのアンケート</p> <p>アンケートの結果、展覧会の満足度について「非常に満足」が63.2%、「やや満足」が31.3%であり、約95%の肯定的な回答が得られた。また、今後新たな再現模造が展示される機会があれば、展覧会に来場したいかという問いには、「来場したい」「目当ての再現模造があれば来場したい」の回答が、あわせて95%以上にのぼり、全体的に満足度の高い回答となっている。</p> <p>また、再現模造が伝統の継承に効果があるとの回答が95%にもものぼり、再現模造製作の意義について深い理解を示されている。</p> <p>一方、「展示品の説明をもう少し詳しくしてほしい」や、「宝物の写真をそろえてほしい」など、より深い理解を求める意見が寄せられており、同事業を進めていく上での参考とする予定である。</p>